

ご病気の方々へのメッセージ

この病気の方々へ治癒のためのぬりぐすり、癒しの言葉、心の処方箋として、ご病気の方々への見舞い訪問としてこれは書かれた。

忠告とお詫び

この心の処方箋は他の私の著作に比べて大変スピーディーに書かれた。他の作品のように構成も検討もする時間がなく、作文を書くような速さで、(書きあがった後は)一度目を通しただけである。草稿のままで乱調である。ただ脚色や留意をすることで、心に自然に浮かんでくる思いを損なわぬために、再度の熟考は必要ないと感じた次第である。読者の方々、特にご病気の方々が、不愉快な説明や厳しい言葉や句に悩まされ、感情を損なうことなきように、そして私のために祈らんことを。

156. 災難に遭うと、「本当にわたしたちは、アッラーのもの。かれの御許にわたしたちは帰ります。」と言う者、(聖クルアーン、雌牛章、156節)

79. わたしに食料を支給し、また飲料を授けられた御方。(聖クルアーン、詩人たち章、79節)

すべての人間の10分の1を形づくる災難に出遭う人々やご病気の方に真の癒しと効能ある軟膏となるであろう。このレムアアでは25の治療薬を我々は要約して記述している。

第1番目の薬

嗚呼、あわれな煩い人よ！心配せずに辛抱してごらんなさい。あなたの病気はあなたにとって苦しみではなくたぶん力の源(元気)となるでしょう。なぜなら、人の一生は資本(もとで)のようなもので、いつかは消えてなくなります。もし成果があがらなければ、資本は消滅します。快適で、気楽な人生というものとはとてもすばやく過ぎていきます。病気はあなたのもとで多大な利益を生じさせ、より善い成果をもたらします。

人生が速く過ぎ去ることにはどめをかけ、時を留まらせ、さらに延長できるのです。そうです、実を成らし、その実を残していくようになさい。さて、病気によって、人の一生は延びることを示

す諺があり、現在まで言い伝えられています。「困難なときは大変長く、幸せなときは大変短い。」

第2の治療薬(2番目のくすり)

おお、辛抱なしの煩い人よ！忍耐し感謝なさい、このあなたの病気はあなたの人生の1分1分をそれぞれ1時間分のイバーダ(崇拜行為)の価値に変えさせることができます。崇拜行為は2種類に分けられます。1つは、行動的でアクティブな礼拝や祈願のようによく知られているイバーダです。

もうひとつは非行動的でネガティブなイバーダで、病気、困難などのような苦しみを伴うものであり、人間の無力さと弱さを感じ、無限の恵みをおつくりになったアッラー(ハールキ・ラフマーン)に避難し、助けを心からこい願うことです。純粹で、偽りのない精神的な崇拜行為との出合いが可能になります。そうですね、アッラーに不平を言わないという条件で、病気で過ごす生涯を信仰する者のためのイバーダとみなす信頼できる伝承(ハディース)もあります。

病気の方々の1分は1時間のイバーダに相当し、完成された方々の1分は、1日のイバーダに相当することが信頼しうる伝承と神秘の発見でも確証されています。

あなたの1分間は1000分間に相当することをそして、あなたに長い一生を勝ちとらせことができるこの病気に対して不平ではなく、感謝なさってください。

第3の治療薬(3番目のくすり)

嗚呼、忍耐なしの煩い人よ！とどまることなく生を受ける者たちはやがて消え去り、若者達はやがては老い、人間は絶え間なく死と別れを繰り返しています。このことは人々がこの世に楽しみ、気楽に生きるために来たのではないことを物語っています。

人間は生き物の中で最も完全で、気高く、他に対しては恵まれた装置を備えて、万物の霊長たる地位を保持する反面、過ぎ去った楽しさや将来起こりうる困難さのを案ずるため、動物よりも低いレベルの場所で、悲しく苦しい人生を過してもいます。

ということは、人は素晴らしい生活をし、快適で幸せな生涯をおくるために生まれてきたわけではないということですね。多大な資本を手に入れている彼、人間は、永遠の生活のために働き、勝ち得るためにここ(この世)へきたわけです。

人間に与えられている資本とは寿命(一生涯)のことです。もし病気が存在しなければ、健康や幸せに注意を払うことはありませんし、この世を快適だと思い込み、来世のことなど忘れてしまいがちです。墓や死を思いだすことも望まなくなり、人生という資本を無駄に使い果たすこととなります。病気は一瞬にして、私達の眼を開かせてくれるものです。肉体や遺体は病気にこう申します。「あなたは永遠に生きられません。あなたにはある役目があるのですよ。高慢さを捨て、あなたを創ってくださったお方(創造主)に思いを馳せて御覧なさい。いつかお墓に埋められることを知り、その準備をなさりなさい。」と。

このように病気は決してだますことのないよき忠告者であり、勧告してくれる案内者でもあります。この点に関しては、病気について不平ではなく、おそらく感謝なさることでしょう。もし病気が重い場合はアツラーに忍耐を与えてくださるよう願うことが必要となるでしょう。

第4の治療薬(4番目のくすり)

おお、不平多き煩い人よ！あなたの正当な報奨は不平を述べるのではなく、感謝することです。忍耐することです。なぜならあなたの体とそれぞれの器官はあなたの所有物ではありません。あなたがそれらを創ったのではありませんし、どこかの店員さんから買ったわけでもありませんね。ということは、あなたの体、体の器官の1つ1つがほかの方の持ち物であるということです。その持ち主、所有者は自分が望んだどおりに管理し、使用します。21のことばで述べたように、たとえば、金持ちで熟練した芸術家が彼の素晴らしい作品や価値ある資産を示すために、貧しい男の人を雇うことにしたとしましょう。

報酬の代わりに。彼は短時間の間、宝石にちりばめられ、巧みに裁縫されたシャツを着せられます。さらに、彼に仕事を与え、いろいろな職務を就かせます。素晴らしい彼の作品を表わすため、そのシャツを切断したり、作り変えたり、短くしたり長くしたりします。はたして、お金で

雇われた貧しい人が、「私に苦勞をかけています。かがんだり、立たせたり、苦しいです。私を美しく見せているこのシャツを短く切ってしまって、私の美しさを台無しにしてしまいました。」とすることは正当でしょうか？「あなたは不親切で不公平な方ですね。」とすることができますか？

煩い人よ、このたとえと同じように、病気のあなたに着せられた眼、耳、頭脳、心臓のような器官を宝石として散りばめたシャツでもって、あなた自身の肉体というシャツを表すために、また、アッラーの美名の彩飾を示すために、すべての物をお創りになった御方(サーニィ・ズルジェラル)はあなたをいろいろな状態に転じさせ、変化させます。あなたが糧を与え給う御方(レッザーク)という彼の美名を知ることができるようにと空腹を、治癒を与え給う御方(シャーフイー)の美名と知り得るようにと病気もおつくりになったことをお知りください。苦悩や困難は、ある部分がアッラーの美名の地位を示すために、それらも神意の一瞬の瞬きや恵みの光明の中で、大変美しく存在しているわけです。もし、おおい(ヴェール)が取り除くことができれば、怖がり、拒絶していた病気のおおいの背後に、愛すべき美しいよい意味を発見することができますよ。

第5の治療薬(5番目のくすり)

嗚呼、病気に悩まされている人々よ！ 経験を通して、私は最近、宿命(運命)を受け入れるようになりました。病気はある人々にとってアッラーからの恵みであり、贈り物であります。ここ8、9年の間、私はふさわしくないと思うのですが、数人の若者たちが私を訪れ、彼らの病気のために祈ってくれるようにといます。いろいろな病気を患っている若者を見ましたが、彼らは他の若者達に比べて来世のことを考え始めることが多いのに気づきました。若さへ泥酔することなく、軽率さと動物的欲求から彼ら自身を守ることまでできています。このことを私はよく考えてみることにしました。そして、耐えられる範囲内での病気というものは、アッラーからの恵みであることを彼らに忠告いたしました。「兄弟よ、あなたのこの病気に反対するわけではありません。でも、病気のために、あなたに哀れみを感じ同情はしておりません。

あなたのために祈りましょう。ただ、病気があなたを完全に目覚めさせるまで辛抱なさるよう
に。この病気が役目を終えた後には、無限の恵みを御創りになった御方(ハールキ・ラヒーム)
がインシャアッラー(アッラーが望めば)あなたを完治して下さりましょう。」と申しました。そし
てさらに「あなたと同じような健康な若者達は、健康であるが故に災難に出遭い、軽率となり、
礼拝を拒否し、墓のことなど考えず、アッラーを忘れ、ほんの1時間のこの世の生活の表面的
な自由さのために、無限の来世の生活を揺さぶり、傷つけ、ついには破壊してしまいます。あ
なたは病気という立場から、これから訪れる墓への道のりを、その後の来世への行程を理解
し、それにふさわしい行いをなさることでしょう。そう、つまり、病気はあなたにとっては健康で
もあるわけです。ある者達にとって、健康はある意味で病でもありうるのですよ。」

第6の治療薬(6番目のくすり)

苦難に不平を言う煩い人よ！あなたにお尋ねします、「あなたの過去の生活を考え、過ぎ
去った楽しい幸せな日々と困難と苦しみの中で過ごした日々を思い出してごらんください。確か
にあなたは「おー」とか「嗚呼」とかおっしゃるだろうと思います。「アッラーに感謝いたします。」
又は「嗚呼悲しいかな！」と心の中や口に出しておっしゃるでしょう。

注意なさってください、「おー、アッラーに感謝いたします」あなたにといわせるものは、あなた
に降りかかった困難や苦しみのことを考えるが魂の喜びを引き起こし、あなたの心は感謝し
始めます。なぜなら苦しみの消滅が喜びですから、その苦しみと困難が消滅すると、喜びが
遺産として残るわけです。

そこで、魂から喜びが溢れ出て、感謝の気持ちが1滴1滴流れでてくるのです。あなたに
「嗚呼、悲しいかな！」といわせるものは過去の楽し幸福です。それらの消滅と共にあなたの
魂には留まることのない苦しみが遺産として残ります。そして過去の楽しさや幸せを考える時
はいつでも、苦しみがふたたびよみがえり、後悔と悲しみの念がわき起こってきます。たった1
日の不法な楽しみが時として1年分の精神的苦痛を生み出します。そして、つかの間の1日
の病気の苦しみには何日分もの魂の喜びという報奨が待っています。(その苦しみは)消滅

の時に救いとなり、その救いからの精神的喜びも生み出します。あなたの直面しているこのつかのまの病気がもたらす結果と内面的報奨についてよく考えてみてください。「すべてはアツラーから、この苦しみもいつかは消えさる。」とおっしゃりながら、不平の代わりに感謝をなさってください。

現世のことを考え病気に悩まされている兄弟よ。この世がもし永遠に続き、私達の道が死に向かっているのではなく、別れと死の風が吹かず、そして苦しい嵐のような未来に精神の冬の季節が訪れることがないのでしたら、私はあなたと共にあなたの状態に同情したことでしよう。けれども、この世はある日私達に「さあ、外へ。」と言うでしょう。(それは)私達の叫び声に耳を傾けることはありません。私達を外へ追い出す前に、私達は病気からの警告を通じて、今からこの世への愛着を捨て去らなければなりません。この世が私達を捨て去る前に私達がそれを心から断念することを試みなければなりません。そうです。病気はこの意味を私達に思い出させ、こう語ります。「あなたの体は石や鉄でできているわけではありません。分裂しやすいいろいろな物質から作られています。おごりを捨て、無力であることをお知りなさい。あなたの所有者(マーリク)と、あなたの役目(義務)を理解し、この世に何のために来たのかを学んでください。」と、心の耳に内緒で忠告していますよ。

この世の楽しみと喜びはずっとは続きませんよ。よく知られていませんが、それらは、はかなくもあり、苦しくもあり、罪多きこともあります。この世の楽しみを失ったことを病気のせいにして、泣かないでください。逆に、病気に内在する精神的イバーダ(崇拜行為)と来世での報奨について考えて見て下さい。そうして、そこから喜びが感じられるよう試みて下さい。

脚注: 自然体で書き表したこのレムアーには2つの第6の治療薬が書かれている。自然体を損なわぬため、そのままに状態にしておく。おそらく何か秘められた知があるのだろうと書き換えなかった。

第7の治療薬(7番目の薬くすり)

嗚呼、健康の楽しみを失った患い人よ。

あなたの病気は健康時にアッラーが与えてくださった恵みの喜びを損ないません。逆に、(喜びは)より味わい深く、より多くなります。なぜなら、絶え間なく続くとその効果は薄れますから。多くの真実を求める人々もこう語っています。「よろずのものは相対することによって、熟知される。」たとえば、暗闇が存在しなければ明るさを知ることはありません死、楽しみもなくなり、寒さが存在しなければ暑さを理解するおとはできませんし、水を飲むことの喜びを感じることはありませんね。空腹が存在しなければ食べ物はおいしくはなりませんね。胃の渇きがあれば、水を飲む楽しみはありません。もし病気が存在しなければ、健康は喜びではなくなります。不健康がなければ健康の喜びは感じられないものです。

比類なき御業で調和のとれた形を創造なさる御方(ファーティリ・ハキーム)は、様々な恵みを人間に気づかせ、味わせたいと望み、人間が自発的に絶え間なく感謝することを望んでいらっしゃる。宇宙の限りない様々な恵みを味わい、人間が知ることができるレベルで、実に、無数の器官や機能で人間を装飾し、(ご自身の恵みを)示されます。このため、人間の健康と幸せをお与えになると同様、病気、欠陥、苦難などもお与えになるのです。あなたにお尋ねしますが、「この病気があなたの頭、手、胃を煩わさないとすれば、あなたはあなたの頭、手、胃が丈夫であった頃の楽しく喜び溢れる神からの恵みを感じながら、感謝なさったでしょうか？そうです、感謝の念もなく、考えることなどなさらなかったでしょう。意識せず、その健康をおそらく注意もせず、無駄に使い果たしたことでしょう。」

第8の治療薬(8番目のくすり)

おお、来世を熟考する患い人よ。

病気は石鹼のように罪の穢れを洗い落とし、清めます。病気が信仰者の犯した罪を赦すために、アッラーから与えられたものであることは、信頼しうるハディース(伝承:預言者(SAS)のお言葉を集めた本)でも確証されています。ハディースでもあるように「実のついた木が揺れるたびに、熟した果実が落ちるように、信仰者の罪は病気のために彼が震えることにより消えさる。」

罪は永遠の生活では、終わることのない病気です。この現世での生活においても、罪は心、意識、魂にとって精神の病気です。もしあなたが辛抱し、不平を述べなければ、この報奨高い病気によって、多くの病気からいつでも救われるのです。もし罪を考えないのでしたら、もしくは、来世をご存じなく、アツラーを知ることもないのでしたら、それは大変ひどい病気を煩っていらっしやるということです。それは、本当に、あなたの小さなご病気の百万倍も重い病気です。その重い病気に悲鳴をあげてください。なぜなら、世界に存在する物すべてはあなたの心、魂、自我と関連を持っているからです。絶え間なく続く使途別れによってそれらの関係は切断されあなたの限りない傷は開かれることとなります。特に、もしあなたが来世についてご存じないために、死を永遠の無であるのご想像なさるなら、あなたはまるで傷つけられ、切り裂かれた様に感じ、世界ほど大きい病気にあなたの肉体は悩まされます。

まずあなたのなさるべきことは信仰心(イーマン)を救う方法を探すことです。それから信仰心を正すことが必要となるでしょう。イーマンは、たいへん傷つき、重い病気を煩うこの大きな精神(魂)の体には、確実にくすりとなり、治癒させることができます。そのくすりを見つける一番の近道は、あなたの肉体的病気が打ち破れる不注意の覆い(ヴェール)の背後に示されたあなたの無力さと弱さの窓を用いて、尊厳に満ちた全能なる御方のお力と慈悲深さを認めることなのです。

そうです。アツラーを知らないものの世界には災難が満ち溢れています。アツラーを知る者の世界は光り輝き精神的幸せに満ちています。その知る段階によって、イーマンの強さによって、それらを感じることができます。このイーマンから生まれる精神的幸せと癒しと喜びによって、些細な肉体的病気の苦しみは消え去ります。

第9の治療薬(9番目のくすり)

創造主を認めた悪い人よ！ 病気の痛み、恐怖と心配が時には死の原因となります。死は見た目が大変恐ろしいので、死の原因となる病気も人々を怖がらせ、不安に陥れます。

まず始めに、約束された時間はすでに決定され、変えることができないことを、強く信じてください。重病人の枕もとで嘆く人々やまったく健康な人々は、ある意味で、もうすでに死んでいます。逆に、重い病気の人々は治療法を発見し、生きつづけているわけです。

第二に、死は見た目ほど恐ろしくはありません。今まで数多くのリサーレ(手紙)の中で、神意と価値に満ち溢れるクルアーン(クルアーンニ・ハキーム)が放つ光によって、明白に、確実に(死について)説明してきましたが、イーマンを持つ人々にとって死とは人生の義務の重荷から解放されることです。彼らにとって、この世は試練の場であり、そこで学び、訓練している崇拜行為の中断を(死は)意味しますし、あの世に去った99%の友人達や親戚達にであうための手段でもあります。死は永遠の故国、永遠の幸福な住処です。死はこの世の牢獄から楽園の庭への招待状です。無限の恵みをおつくりになったアッラー(ハールキ・ラフマーン)の気前のよさから彼に対する奉仕の見返りとしてその報酬を得る時でもあります。これが死というもののものである。死は恐ろしいものとみなすべきではなく、むしろ恵みと幸せへの序章として捉えることが必要です。

死を恐れるアッラーの愛される僕達の幾人かは、死そのものを恐れているわけではなく、おそらく、人生の義務を果たし続けることで、より多くの恵みを勝ち得ようという希望のために、(死ぬことを)恐れているのです。

そうです、イーマンのある者にとって、死は恵みへの扉となり、アッラーを信じない者達にとって死とは永遠の奈落です。

第10の治療薬(10番目のくすり)

わけもなく心配する悪い人よ！ あなたは病気が重いことを心配なさっていますね。その心配は病気を悪化させます。病気を軽くしたいとお望みなら、よけいな心配をなさらないよう心がけ

てみてください。つまり、病気の益や報奨そしてすぐよくなるとお考え下さい。心配を取り除き、病気の根を切り取ってください。

そうです。心配は病気というものを2種類に分けます。肉体的な病気の背後で、心配による精神的な病気が心に忍び寄ってくるのです。肉体的な病気は精神的病気に依存し、存続していくのです。従順で受けいれようとする態度で、病気の神意についてよく考えることで、もしその心配が消え去れば、肉体的な病気の主な根は切り取られ、軽くなり、その一部は消えてなくなります。特に、起こりそうもないことを起こるかもしれないと心配することで、1ディルハム(約 g)ほどの体の病気は、時に10ディルハムまで増えてしまうことがあります。心配を取り除くことで、その病気の10のうち9は消えます。

心配が病気を悪化させるように、アッラーの神意を責め、アッラーの限りない恵みを批判し、無限の恵みを御創りになった御方(ハールキ・ラヒーム)に不平を述べたため、反対に平手打ちを食わされ、病気をさらに重くしてしまうというわけです。

そうです、やはり、感謝はアッラーからの恵みを増大させ、不平は病気や困難を増大させるわけですね。

心配、そのものも、実は病気の種類です。その治療薬は病気の神意を知ることです。神意やその益についてはもうすでにご存知ですね。その軟膏を心配という病気にぬれば、助かりますよ。

「嗚呼」の代わりに、「おお」と「嗚呼悲しいかな！」の代わりに「すべての状態をアッラーに感謝します。」と仰ってください。

第11番目の薬

忍耐力を失っている患い人よ。病はあなたに苦痛を与える。しかしそれと同時にそれが治ったあとは、病が消え去ったことによる精神的喜び、善行を行えた事による魂の喜びをあなたに与えてきた。今日この時間より先のことについては、まだ病気は存在していない。存在していないのだから苦痛もないはずである。苦痛がないのだから悲嘆にくれる必要もないのだ。

存在しないものを存在するかのよう感じるによってあなたに忍耐力は失われるのである。

なぜなら、今日より以前の全ての病は、時が過ぎ去ったのと同時にその苦痛も去ってしまったはずであり、その病のお陰である善行と、病が去ったことによる喜びだけがそこに残ったのである。あなたに喜びを与えるはずのものであるのに、これらを考え、思い煩うこと、耐えられないと感じることは馬鹿げた行為である。これからやってくる日々とは、まだやってきてはいない日々ということである。それらのことを今から考えて、まだ存在しない日に起こるまだ存在しない病気からの、まだ存在しない苦しみについて考え思い煩うこと、耐えられないと感じること、この三段階のまだ存在しないものに対して抗おうとすることが馬鹿げた行為でなくて何であろうか。

今現在より前の病はあなたに喜びを与えているものである。未来はまだ存在せず、未来における病も、その苦しみもまだ存在しないものである。神があなたに与えられた忍耐力をあちこちに分散させてはいけない。今現在の苦しみに対してのみ集中し、耐えるようにしなさい。

第12番目の薬

病のせいで崇拝行為や祈りの言葉から遠ざかってしまい、その欠乏によって苦しんでいる患い人よ。あなたに教えよう。ハディースに、次のようなものがある。「アッラーが好まれないものから身を守ろうと努める信者は、病気のせいで唱えることができなかった祈りの章句による善行を、その病気である時期に獲得する」。義務の礼拝をできる限り守っている病人は、忍耐と神への信用によって、そして義務を果たしていることによって、その期間のスナ(随意)の礼拝をも、行ったことになる。

病は、人の弱さ、無力さをほのめかしているものである。弱さという言葉で、無力さという言葉で、人はお祈りを行っていることになる。アッラーは人にこの上ない弱さ、際限のない無力さを与えられた。常にこういった形で神の扉に庇護を求め、祈るように、ドゥアーするように、と。

「あなた方が私の主に祈らないなら、かれはあなた方を構ってくださらないであろう」(識別章7 7節)というクルアーンの言葉に秘められた意味のように、心からのドウアーや祈りは人が創造された理由であり、その価値の根拠でもある。病はドウアーや祈りのきっかけとなるものである。だから人は、不平をいうのではなく感謝をするべきであり、病によって開かれたドウアーの栓を、健康を取り戻すことによって閉じてしまうことのないようにしなければならないのだ。

第13番目の薬

病に不平を言っている哀れな患い人よ。病は一部の人のにとって、大切な宝である。貴重な、神からの贈り物である。病気の人は誰でも、自らの病をそのようにとらえることができる。

寿命は、知ることができないものである。神は人を思い通りにならないことに対して失望することや、自我のとりこになり神の命令を忘れることから救うために、また恐れと希望の中間にいて、この世とあの世を守ることができる状態に保つために、その英知によって、寿命を秘められたものとされた。最期の時はいつでもやってくる可能性があるのである。もし人がのんきに構えていれば、あの世での生に大きな害を与えることになってしまい得る。病はこののんきを蹴散らし、あの世を考えさせる。死を思い起こさせる。このようにして備えがされるのである。20年かかって到達できなかった段階に、20日で到達できたりすることもある。

例を挙げよう。私の友人に、今は故人となったが、二人の若者がいた。この二人は無筆であったにも関わらず、その誠実さと信仰の奉仕において、生徒達の中でも最も優れていた。私はいつも驚きをもって彼らを眺めていたものだった。彼らが死んだ後で私は理解したのだ。二人にはそれぞれ重大な病があった。その病が導きとなって、のんきで義務を怠る若者としてではなく、罪から身を守り、価値のある奉仕を行い、あの世にとって有益な態度で生きたのであった。インシャッラー(神がお望みならば)、2年間の闘病が、永遠の生における何百年もの幸福をもたらしたことであろう。私が彼らの回復のために行ったドウアーは、今になって分かったこ

とだが、この世の健康という意味では、呪いのようなものであったのだ。インシャラー、私のあのドゥアーが、彼らのあの世での健康のために受け入れられたことを願っている。

この二人は、10年間続く努力によって得られるようなものを獲得したのだと私は確信している。もし二人が、一部の若者のように、健康さと若さを過信して不注意さや快樂にはまってしまっていたとしたら、死が彼らを、罪にまみれたままとらえていたとしたら……。彼らの墓は光の宝庫ではなく、さそりや蛇の巣になっていたことだろう。

病にはこのような効能がある。だから不平を言うのではなく、神への信頼と忍耐と共に神に感謝し、神の慈悲を信頼すべきなのである。

第14番目の薬

目が見えなくなってしまった患い人よ。信仰する者の目をふさいだ覆いの下に、どのような光、そして心の目が存在するのかをあなたが知れば、あなたは「慈悲深い神に無限の感謝を」ということであろう。この話を説明するために、次の出来事を語ってあげよう。

私に8年間の間完全な誠実さをもって奉仕してくれたある人物の、おばに当たる人の目が、見えなくなった。この女性は私のことを実際の何倍も優れた人だと買いかぶっておられたようであった。私にモスクの入り口のところで声をかけて「私の目が見えるようになるようにドゥアーしてください」と言われた。私も、この素晴らしい女性のために、彼女の信心深さゆえにその目が回復するようにと祈ったのであった。二日後、別の地方から眼科医がやってきた。そして彼女の目は見えるようになったのである。しかし40日後、彼女の目はこの世界に対して永遠に閉じられた。彼女は亡くなられたのである。私はおおいにショックを受けた。インシャラー、私のあのドゥアーは、あの世のために認められたと願いたい。そうでなければ、私のドゥアーは非常に誤った、呪いのようなものであったのだ。彼女の寿命は40日しか残っていなかったのである。40日後、彼女は亡くなられたのであった。亡くなった彼女が、40日間その地方の悲しい風景をその年老いた目で見るのと相当するものとして、墓場で、天国の庭園を4万

目見られるだけのものを獲得したのであった。彼女の信仰心は強く、信仰への結びつきも強固なものであったからである。

そう、信仰する者の目がふさがれ、目が閉じられたまま墓に入れば、その状態に応じて、墓場の他の人々も尚、光の世界を見ることができるのだ。この世で我々がいかに多くのものを見ていようと、目が見えない信者はそれらを見ることできない。墓場では、その目が見えない信者たちは、信心のうちにそこに行ったのであれば、墓場の他の人々よりもよく見ることができる。望遠鏡で見ているような形で、墓場において、その段階に応じて、天国の庭園を映画のように見ることができるのである。

このような、光に満ち、地面の下にいながらも天国を見ることができる目は、目をふさいだ覆いの内側に、感謝と忍耐によって見出すことができるのだ。この覆いを取り払い、その目によってあなたに物を見させる眼科医が、全ての章句に神の英知を含む、聖クルアーンなのである。

第15番目の薬

嘆いている患い人よ。病気の有様を見て嘆いてはいけない。その意味を見つめなさい。そして、感謝の声を上げなさい。もし、病気の意味がよいものでなかったなら、無限の慈悲深さで全てを創造されたアッラーが、最も愛されたしもべたちに、病を負わせられることはなかったであろう。しかし、次のようなハディースが存在しているのである。「人々のうちで、災いや困難さに最もさらされた人々こそが、最も善良で、完成された人々である」。預言者アイユーブをはじめとして、預言者たち、アッラーの友といわれる人たち、そして深い信仰を持つ人は、自らの病について、それぞれが神の承認のためだけに行なわれる崇拝行為であり、慈悲深い神からの贈り物であると見なしたのであった。そして忍耐のうちに神に感謝を捧げた。無限の慈悲深さで全てを創造された神による、外科手術のようなものであると彼らは見なしたのだ。苦難に嘆く患い人よ。この輝かしい一団に加わることを望むなら、忍耐のうちに感謝を捧げなさい。

い。その逆に不平を言っているのであれば、彼らはあなたをその中に迎え入れないであろう。不注意な者のための穴に落ち込むことになる。暗い道に行くことになる。

一部の病については、もしそれが死によって結末を迎えるのであれば、精神的な殉教者となる。殉教者といった、アッラーの愛されるしもべになる要因となるのである。例えば、出産から起こる病と腹痛の中で、あるいは、溺れたり、火傷やペストによって死んだ者が精神的殉教者になるように、死によってアッラーの愛されるしもべとなることができるいくつかの神性な病がある。そして、病はこの世界への愛着や結びつきを軽減させるものであるが故に、死がもたらすこの世界からの別離の苦悩をやわらげるものでもある。時にはそれを愛させもするのだ。

第16番目の薬

苦しみから不平を述べる患い人よ。病は、人間社会における生活で最も重要、かつ素晴らしいものである尊敬や憐れみといったし層を定着させるものである。なぜなら、人を粗暴で非情にする自負心と言うものから救われることになるからである。凝血章6～7節の「いや、人間は本当に法外で、自分で何も足りないところはないと考えている」の言葉に秘められているように、健康であることからもたらされる自負心にひそむ、人を悪へと追い込む自我は、本来価値を置くべき兄弟愛や友情と言ったものに敬意を感じない。そして、憐れみや思いやりを必要としているはずの、災いに直面している人、病気を患っている人に対して憐れみを感じない。病気になる時、人はそれによって自らの弱さ、無力さを理解する。

敬意を払うにふさわしい、兄弟愛といったようなものに対して、重きを置くようになる。お見舞いに来てくれた人々や助けになってくれた人々に対して、敬意を感じるようになる。同類に対する憐れみからもたらされる、人間同士に対しての憐れみ、そしてイスラームの最も重要な特徴である、災難に遭っている人々への憐れみを感じるようになる。彼らを真の意味で同情するようになり、憐れみをかけ、可能であれば彼らを助ける。それができなければドウアーを行なう。シャリーア(イスラーム法)においてスンナ(預言者の慣行)とされている、状態を尋ねることを目的にお見舞いに行き、善行を行ったことになるのだ。

第17番目の薬

病のために善行を行なうことができないと不平を言っている患い人よ。感謝しなさい。最も純粹な偽りのない善行への扉をあなたに開くのが、病なのである。病は病人と、アツラーの承認のために病人の世話をする人に、常に善行の徳を獲得させる。それと共に、ドゥアーが受け入れられる最も重要な理由にもなる。

病人の世話をすることは、信者にとって善行となる。病人の具合を尋ねること、病人に迷惑をかけない範囲でお見舞いに行くことはスンナ(預言者の慣行)である。罪の許しを求めるための行為にもなる。ハディースにも次のようなものがある。「病人からドゥアーを得るようにしなさい。彼らのドゥアーは受け入れられる」

特に、病人が親類から出た場合には、ことに父や母であった場合には、彼らに対する奉仕は重要な崇拜行為となる。重要な善行である。病人の心を喜ばせること、慰めを与えること、これらは重要なサダカの意味を持つ。父や母が病気である時に、彼らの傷つきやすい心を喜ばせ、彼らから祈りを得る子は、幸福である。

社会生活においての最も重要な真実である、父や母の憐れみ深さに対して、彼らが病気になった時に、敬意をもって、子供としてふさわしい憐れみを持って応える子の態度や、人間の尊厳を示すその忠実さにたいして天使達さえもが「マーツシャッター、バーレカッター」と拍手を送っているのだ。

そう、病気である時には、それがもたらす苦しみを消し去ってしまうような、周囲の憐れみ深さ、いたわり、思いやりなどから生まれる素晴らしい喜びが存在するのである。

病人のドゥアーが受け入れられる、と言うのも大切なことである。私は30年40年ずっと、肩の激痛という病から逃れるためにドゥアーをしてきた。そして理解したことは、この病はドゥアーのために与えられたのである。ドゥアーによってドゥアーそのものを取り除くことはあり得ないのであるから、ドゥアーからもたらされるべきものはあの世においてのものとなると私は理解したのだ。それ自身も一種の崇拜行為であり、病気によって無力さを理解し神の扉の前に

助けを乞い求めるようになるのだ。だからこそ、30年ドゥアーし続けたにも関わらず一見ドゥアーが受け入れられないように思えても、このドゥアーを放棄することはなかった。なぜなら、病とはドゥアーのための時であり、健康を取り戻すことはドゥアーの結果ではないからである。無限の慈悲深さをもたれ、全てを英知によって行なわれる神は健康を与えられるのであれば恵みとして与えられるのである。

さらに、ドゥアーが望む形で受け入れられなかったとしても、そのドゥアーが受け入れられなかったというわけではない。全てを英知によって行なわれる神はもっとよく御存知である。私たちのために最善が何であれ、それを与えられるのだ。時には、この世のために行ったドゥアーが、私たちのために、あの世でのものとされ、その形で受け入れられることもある。

何であれ、病に秘められた神秘によって純粋さ、偽りのなさを獲得した、特に無力さ、弱さ、謙虚さ、そして必要に迫られたところからのドゥアーは、受け入れられるに近い状態にある。病は、このような偽りのないドゥアーの要因となるものである。ことに、信仰深い病人、そして病人の世話をする信者たちは、このドゥアーの恩恵をうけるべきである。

第18番めの薬

ああ、感謝することを放棄して不満を述べている患い人よ。不満をいうには、正当性がなくてはならない。あなたの権利が一つでも失われたわけではないのに、あなたは不満を言っているのだ。あなたに対して感謝させる権利を持っているものがたくさん存在するのに、あなたはその感謝を行なわなかった。アツラーに対する正当性を持たないまま、根拠もない形で権利を求めているかのように、不満を述べている。あなたは、健康という点で自分よりも上の段階にいる人たちを見て不満を言うべきではない。おそらくは、自分よりも悪い段階にある病人達を見て、感謝する義務を負っているのだ。あなたの手が折れてしまったのなら、手が切断された人のことを思いなさい。片目が失われたのなら、両目を失った人のことを思いなさい。アツラーに感謝しなさい。

そう、恵みという点において、自分よりも上の段階にある人を見て不満を言う権利など、誰に

もないのである。そして、災いに遭遇した時皆にとって正当な権利とは、災いという点でさらに上の段階にいる人のことを考えることであり、そして感謝することである。

このことに関する説話は、別のところでも示したことがあるが、要約は次のとおりである。

ある人が、一人の不運な人物をミナーレ(モスクの尖塔)に上がらせていると考えて見なさい。ミナーレの階段それぞれにおいて、それぞれ別の恵み、贈り物を与える。ミナーレのてっぺんでは最も素晴らしい贈り物を与える。このさまざまな贈り物に対して、感謝すること、恩を感じる必要があるにも関わらず、この人物が、階段ごとに与えられた全ての贈り物のことを忘れ去って、あるいはないものと見なして、感謝をせず、上を見ながら「このミナーレがもっと高かったらよかったのに。

もっと上まで上がれたらよかったのに。どうしてこのミナーレは他のミナーレみたいに高くないのだろう」と不満を言い始めたとしたら、それはいかに恩知らずで不当な行為であろうか。

人は無から存在を得て、石にもならず、木にもならず、動物にもならず、人間になれた。そしてムスリムとして、長い間健康にも恵まれ、大きな恵みを得てきた。にも関わらず、恵みに適当でないとして、あるいは誤った判断のせいで、あるいは何かを悪用したせいで失ってしまった、手が届かなかったとして不平を言うこと、忍耐できなくなること「私が何をしたというのだ。こんな災難に襲われた」と、神の「全てを与えられるお方」という特性に対して非難したりするようなことは、肉体的な病よりもなお困難な、魂の病である。折れてしまった手で向かって行くように、その不満によって病をさらに悪化させることになる。

理性のある人なら、災難に遭うと「本当に私たちはアッラーのもの。彼の御許に私たちは帰ります」と言う者。(雌牛章156節)

に秘められた意味のように、神にお任せし、耐えるべきである。そうして、その病の任務を終了させ、去らせるのである。

第19番めの薬

偉大さと無限の美を備えられたお方アッラーの全ての美名は「何もかも必要とされないお方」という美名の表現で示されているように、素晴らしいものである。存在する全てのものの中で、このお方の最も優美で素晴らしく、意味深い鏡は、人生である。美しいものを映す鏡は美しい。美しいものの美しさを示す鏡は美しさを増す。鏡の前に何であれ美しいものがあれば鏡も美しくなるように、人生の上で何があろうと、真実の点においてそれは美しい。なぜならそれはアッラーの美名の素晴らしいはたらきを示しているからである。

人生が常に健康のうちに何事もなく過ぎれば、そのはたらきは一つの鏡に過ぎなくなる。それはある形で消滅や無を思い起こさせ、苦しみを与え得る。人生の価値が目減りし、生の楽しみを苦しみによって失う。早く時が過ぎるようにと道楽や快樂にふけるようになる。それが刑期であるかのように、貴重な生の時間を敵視し、時間をつぶして過ぎ去らせようとする。

しかし、さまざまな状況変化や動きの中でいろいろな状態を経ていく人生は、その価値をひそやかに示し、人生の重要さと楽しさを知らせるものとなる。苦しみや災いの中にあっても尚、生の時間が終わることを望まない。時間が過ぎない、と不平を言うこともない。

そう、裕福で、やらなければいけないこともなく、安楽いすに座って、全てが揃っているような人に尋ねてみなさい。「今どのような状態ですか」と。「いやあ、時間がぜんぜん過ぎないよ。おいで、一緒に遊ぼう。時間つぶしのために何か楽しいものを見つけよう」というよう、悲痛な返事を得ることになるだろう。あるいは、果てのない欲望からもたらされる「これがない、あれがない、これもやっていたらよかった」というような不平を聞くことになるだろう。

困難な状態の中にあり、やらなければいけないことを多く抱えている貧しい人にも聞いてみなさい。彼が理性を持っているなら、こういうであろう。「神に感謝を。元気で働いているよ。時間がこんなにも早く過ぎなければいいが。仕事を終わらせられない。時間が過ぎるのは早いよ、止まらない。いろいろな苦勞はあるけどそれも過ぎていってしまうものだ。なにもかも、あっという間に過ぎていってしまう」と。生の時間がどれほど重要であるか、過ぎ去ってしまうことへの悲しみと共に語る。つまり、困難さや働いていることによって、人生の楽しみや生の時間の

価値を理解しているのである。苦勞のなさ、病のなさは人生を辛いものに変え、だからこそ早く過ぎてしまえと願うのだ。

ああ、病気の兄弟よ、知りなさい。災い、災難、さらには罪の元、本髄とは無である。無は災難であり、闇である。変化のない安楽な状態、動きのなさ、停滞といった状態は無に近いものであり、だからこそ無における闇をほのめかし、苦しみを与えるのである。動きや状態変化は存在であり、無ではなく存在を示すものである。存在とは偽りのない善であり、光である。

だから、あなたの病気は、あなたの貴重な生を純粋なものとし、力を与え、よりよいものとし、体の他の各器官がその病んでいる器官のために協力し合うこと、そして全てを英知をもって創造されたお方のそれぞれの美名の働きを示すこと、といった多くの任務のためにあなたの体に客として派遣されたのだ。インシャッラー（神がお望みならば）、早く任務を果たして去るように。そして健康に告げる。「さあ来なさい、私の代わりにここにずっといなさい。あなたの任務を果たしなさい。ここはあなたの住処だ。ここで楽にしなさい」

第20番めの薬

ああ、その苦しみのために方策を求めている患い人よ。病気は、二つに区分することができる。一つは真実のものであり、もう一つは被害妄想である。真実の病に対しては、英知と偉大さによって健康を与えられるお方アッラーがこの世を巨大な薬局とされ、全ての苦しみに対して治療策を備えられておられる。全ての苦しみに、それぞれに適した方策を備えられたのである。治療のために薬を用いることはイスラームの教えに適したことである。しかしその効果と健康はアッラーからもたらされたものだと認識することが必要である。薬を与えられたように健康をも、アッラーはお与えになる。

殊に、信心深い医師の薦めに従うことも、重要な薬となる。なぜなら多くの病気は、間違った使い方や摂生のなさ、浪費、過ちによって、さらには道楽や不注意さから起こるものである。信心深い医師は、当然教えに適した形で忠告を行い、支える。病の原因になるようなこれら

の要因を禁止し、また慰めを与える。病人はその支えや慰めに信頼を置き、病を軽減させる。苦しみではなく、心地よさを与えるのである。

しかし妄想の病に関しては、そのための最良の薬はそのことに重きを置かないことである。重きを置けば置くだけその病は大きくなり、膨らむ。気にしないようになると小さくなり、散ってしまう。蜂の群れとやりあえばやりあうだけ蜂は人を襲ってくるが、かかわりを持たなければ蜂も散ってってしまうのと同様である。さらには、暗闇の中で目の前で揺れるひもからもたらされる妄想も、重きを置くに従って大きくなる。重きを置かなければ、そのありきたりのひもが蛇ではないことに気づき、自分があわてたことに笑うだろう。

この妄想からくる病は、もし長く続けば真実の病に変わってしまい得る。怖がりであること、神経質であることは人にとって悪い病気である。物事を大げさに見せる。精神的な力をつぶしてしまう。

特に、無慈悲な半人前の医師、あるいは良心のない医師などに出くわしてしまった場合、妄想はさらに勢いを増す。金持ちであれば財産を使い果たすことになってしまい、そうでなければ理性が失われてしまうか、健康が害されるかのどちらかである。

第21番めの薬

病を得ている兄弟よ。あなたの病は肉体的な苦痛を与える。しかしその肉体的苦痛を消し去ってしまうほどに重要な、精神的な快樂があなたを包んでいるのである。

なぜなら あなたに父や母や親戚がいるのであれば、とつくに忘れ去られていたはずの素晴らしい憐れみ深さがあなたの周囲で再びおこり、あなたが子供の頃に見ていたようなあの素敵なまなざしを見ることになる。それと共に、隠されていた友情が、病気というものの引力によって、再びあなたと共にあることになろう。これらに対して、あなたの肉体的な苦痛はたいしたことのないものとなる。

それから、あなたが誇りをもって奉仕してきた人たち、好印象を持ってもらおうと努力してきた人たちが、あなたの病によって、あなたに対していたわり深く奉仕することになるのである、そ

してあなたは、人における憐れみ、本来持っているいたわり深さなどをあなた自身にひきつけているのであり、あなたは何も無いところから助けてくれる友や、憐れみ深い親友を得たのである。

しかもあなたは、困難な奉仕からの休憩の命令を、この病気から得て、休んでいるのである。だから、あなたのささやかな苦痛のこれらの精神的喜びに対して、あなたは不満を言うのではなく、感謝をしなければならない。

第22番めの薬

ああ、卒中のような重い病にかかった兄弟よ。まずあなたによいことを知らせよう。信仰する者にとって卒中は素晴らしいものとされている。私はこのことを以前から、聖人とされる人々から聞いていたが、その意味を理解できなかった。今その意味が、このようではないかと心の上ってきたのだ。

聖人と呼ばれる、アッラーに特に強く結びつき、崇拜行為を熱心に行なう人々は、アッラーの承認を得るために、そして精神的危機から救われるために、さらには永遠の幸福を手に入れるために、二つの基礎的事項を実行したといわれている。

一つめ、自分の死への想念。つまり、この世界がはかないものであると同様、人自身も、義務を負った一時的な客人であることを考えることによって、永遠なる生のために努めたのであった。

二つめ、自らの欲望や感情という危険から逃れるために、苦行や修行によって、自らの欲望を抑えようと努めた。

半身の健康を失ってしまった患い人たちよ。あなた方には容易で、幸福の要因となるであろうこの二つの基本事項が与えられたのである。あなたの体の状態は常に、この世界の衰微と、人がはかない存在であることを気づかせているのである。この世界はまだあなたを圧倒することができずにいる。不注意なのんきさは、あなたの目をふさぐことができずにいる。半身不随となっているような状態である人を、欲望、特に無意味で迷信的で罪であるような欲望、欲

望を満たすだけの食物などがだますことはできない。このような欲望の危機からすぐに逃れることができるのである。

このように信者は、信仰によって、そしてアツラーにお継りすることによって、卒中のような重い病から、少しの時間で聖人たちの苦行ほどに、よい結果を得ることができる。その場合、このひどい病気も、たやすいものとなるのである。

第23番めの薬

孤独で、哀れな、不運な患い人よ。あなたの病と共に、孤独や望郷の念が、最もかたくなな心の持ち主でさえも同情させ、憐れみを引き寄せろのだ。その場合、考えてみてほしい。クルアーンで、全ての章の始まりにおいて御自身を「慈愛深く慈悲あまねく」という形で我々に示されるお方、そしてその慈悲からの一筋の光によって、全ての子供たちに対してその母親たちを驚くべき慈悲の形に導かれるお方、毎年春になるごとに慈愛の顕示によって、地上を恵みで満たされるお方、永遠の生での天国や全てのの美しいものと共に慈愛の顕示であられるお方であられる、全てを無限の慈愛によって創造された神へ、あなたが信仰によって結びつき、そのお方を知り、病気のその哀れな言葉で救いを乞い願いドゥアーすること。これらによって、あなたのこの、故郷から遠く離れた地での孤独な病は、そのお方の慈愛のこもったまなざしをあなたに向けさせるのである。

そのようなお方がおられ、あなたを守ってくださるのである。あなたには全てが足りていると言っている。真の意味で異郷にある人、孤独な人とは、信仰し神にお任せするという形で神への結びつきを持っていない人、あるいはその結びつきに重きを置いていない人のことをいうのである。

第24番めの薬

罪もない病気の子供の世話をしている人、それから無邪気な子供と同じような状況にある老人に奉仕している人よ。あなたの前にはあの世での大きな報奨がある。喜んで、そして努力してその病人達の世話をしなさい。

罪もない子供たちの病気は、その繊細な体にとっての訓練であり、修行であり、将来この世界の混乱さに耐えることができるようにするための注射のようであり、神聖なしつけでもある。それと同様に、子供のこの世での生のための多くの英知が秘められており、精神世界や生き方の純化の要因となるものである。大人たちがそれまでの罪から清められることに対して、将来あるいはあの世で、精神的に高められるための注射のようであるこの病から得られる善行は、父や母においても記される。特に、憐れみによって、子供の健康を自分の健康よりも優先させる母親達の行為が天使によって書きとどめられることは、不動の真実とされている。

老人の世話をすることによっては、大きな善行が得られることである。しかしそれだけではなく、老人の(特にそれが父や母であれば)ドゥアーを受け、彼らの心を満足させること、彼らの恩に報いるべく奉仕をすることは、この世での幸福をもたらすものでもあり、あの世での幸福の要因となるものでもあるということは、正しい伝承によって、さらには歴史上の多くの出来事によって確かなこととされている。

年老いた父や母にきちんと従っていた幸運なる子は、自らの子供達からも同じようにされるのと同じように、親につらく当たっていた不運な子は、あの世での罰だけでなく、この世においてもひどい罰を受けることになるということも、多くの事項によって確かなことである。

そう、老人達、罪なき者たちの世話をすること、ただ身内の世話をすることにとどまらず、信仰の民が彼らに遭遇し、尊敬すべき老人がその助けを必要としているのであれば、心からその老人の世話をすることが、イスラームの教えの要求するところであろう。

第25番めの薬

病を得ている兄弟たちよ。あなた方が特に有効で、どのような症状にも効果のある薬、真の特効薬を求めているのであれば、あなた方の信仰心を広げてみなさい。すなわち、悔悟や許しを求めての祈り、礼拝、しもべとしてあること、などによって、聖なる特効薬である信心を、そしてその信心からもたらされる薬を、有効利用しなさい。

そう、この世への愛情と結びつきによつてのんきな不注意さに陥っている人たちは、この世界ほどの大きな病を、精神的に負っている。信仰心はと言えば、消滅や別離といった衝撃によつて傷ついているその精神的存在に一気に健康をもたらし、その傷を癒し、真の意味での健やかさを与えるものであるということは、これまでも述べてきたことである。

信仰心という薬は、義務をできる限り果たすことによつて効果を示す。のんきさ、快樂、欲望、ハラールでない楽しみにふけることなどはこの特効薬の効果の妨げとなるものである。病は不注意さを取り除き、食欲を失わせ、ハラールでない楽しみに走る事を防ぐ。だからそれによつて効果を得られるようにしなさい。真実の信仰の聖なる薬を、そしてその光を、悔悟や懺悔、ドウアーや祈りと共に、有効に使いなさい。

アッラーがあなた方に健康を与られますように、あなた方のこの病が、あなたの病を清めるためのものとされますように。アーミーン、アーミーン、アーミーン。